

## ～12市町村 復興再生への取組《川俣町・田村市》～

(公財)福島県農業振興公社

### 川俣町山木屋地区 及び 田村市都路町における営農再開状況及び農地中間管理事業の取組紹介

川俣町山木屋地区の営農休止面積は375haであり、今年度の営農再開面積は246haとなり、約65.6%の再開率となっています。地区内には、規模拡大に意欲的な担い手が多数おり、町と連携して、農地中間管理事業を活用して農地の集積を進めています。しかし、除染土壌等の仮置場が今もまだ約33ha（22箇所）農地に残っており、担い手への農地の集約化に妨げとなっている状況です。そのため、町が県と連携し、仮置場返地に向けて環境省と協議を行うとともに、仮置場返地後の農地の利活用に向け、担い手の意向を聞き取りながら、更なる農地集積・集約化に向け地域の合意形成を図っております。農地バンクとしては、農地中間管理事業のマッチングをスムーズに行えるよう、日頃から担い手と情報交換を密に行っております。

仮置場返地に向けた現地確認



担い手との意見交換

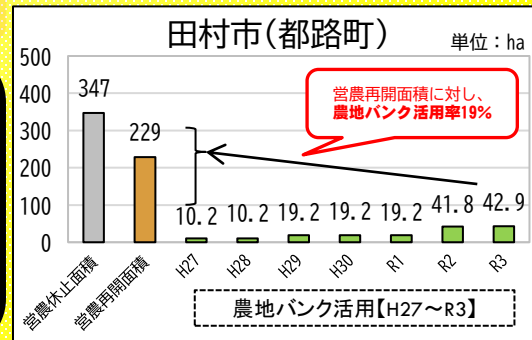
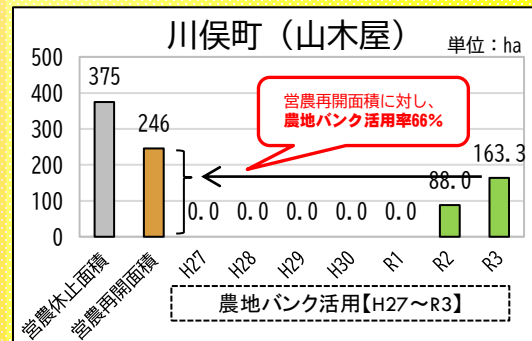


田村市都路町の営農再開については、水稲作付(WCS含)状況を見ると震災前347haに対し、今年度は229haとなり約66.0%の再開率となっています。担い手の規模拡大に合わせて、町内3地区（地見城、山口、上岩井沢）にて福島再生加速化交付金を活用した基盤整備事業が実施されております。現在は、山口及び上岩井沢地区での農地中間管理事業の活用に向けて（地見城地区は事業活用済み）、基盤整備実行委員会役員や農地所有者に対する説明会等にて、地域の方々との意見交換をしながら、農地中間管理事業の普及活動や契約に向けた未相続等の案件の調整を行っています。

基盤整備地区の話し合いへの参画



都路町内の  
基盤整備（大区画化）工事の状況



#### 《市町村コーディネーター 自己紹介》

令和3年4月から川俣町山木屋地区と田村市都路町を担当しております市町村コーディネーターの熊田 明彦（くまだ あきひこ）です。令和4年4月より田村市都路路行政局内に駐在し、農地中間管理事業の普及推進に取り組んでいます。これまでの人との繋がりを大切に、関係機関と連携しながら、農地中間管理事業を通して両地域の更なる営農再開や、営農の継続に尽力したいと考えております。



熊田 市町村コーディネーター